

管内経済は、全体として 緩やかながら回復の動きが 続いている



その7

平成13年1月、財務部では管内経済情勢を次のとおり取りまとめました。

財 務 部

概 況

最近の管内経済情勢をみると、企業の設備投資は前年度を下回る見込みとなっているほか、公共事業も高水準であった前年の反動もあって前年を下回っている。しかしながら、新設住宅着工戸数は順調な動きとなっており、観光は三ヶ月連続で月別の過去最高記録を更新している。また、個人消費は堅調な動きとなっている。

こうした中、十二年度下期の企業収益は、前年の反動もあって減益の見込みとなっているほか、生産活動は総じて服感がみられる。

なお、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、一部に明るい動きもみられる。

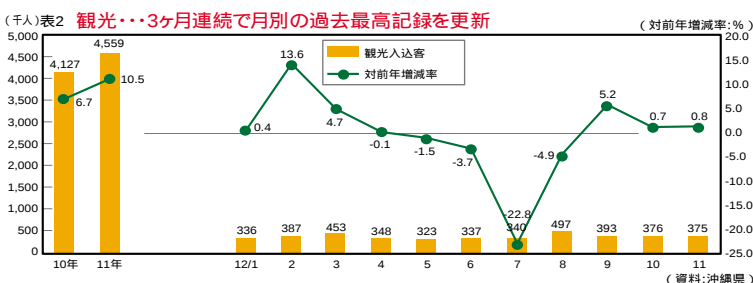
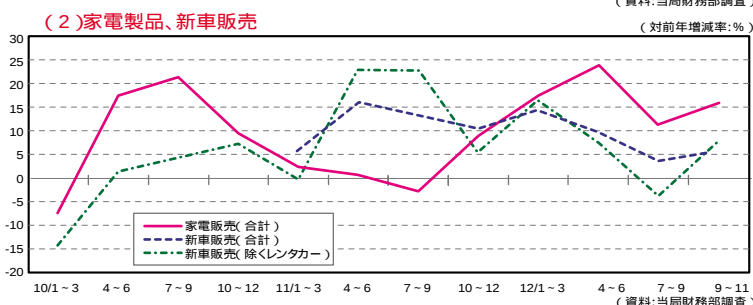
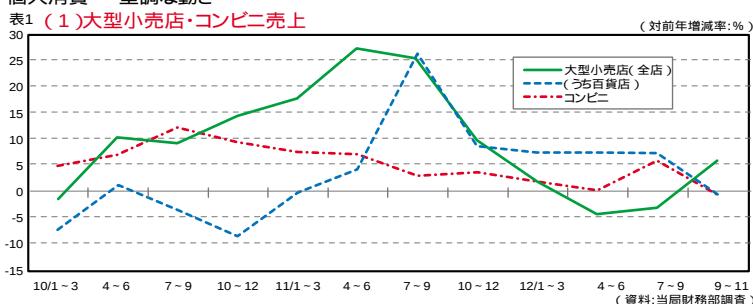
このように、個人消費は、堅調な動きとなっている。

- **観光** についてみると、観光入込客は、関西方面や外国からの入込みに落ち込みがみられるものの、全体では増加に転じ、三ヶ月連続で月別の過去最高記録を更新している。
- **住宅建設** を新設住宅着工戸数でみると、持家及び分譲住宅が前年を下回っているものの、貸家が前年を大幅に上回っていることから全体では順調な動きとなっている。
- **資金別** の着工戸数では、民間資金が前年を大幅に上回っている。
- **設備投資** をみると、十二年度は製造業、非製造業ともに前年度を下回る見込みとなっている。
- **公共事業** を公共工事前払保証請負額でみると、市町村等で前年を上回っているものの、高水準であった前年の反動もあって、国、県、公団、事業団等で前年を下回っていることから全体では前年を下回っている。
- **生産活動** をみると、建設関連業種は、公共事業が高水準であった前年の反動により、やや低調な動きとなっている。また、食料品では、泡盛が堅調な動きとなっているものの、ビール、食肉加工品、パン、めん類が低調に推移している。

このように、生産活動は、部業種において堅調な動きもみられるものの、総じて服感がみられる。

- **企業収益** 石油、電気ガスを除くをみると、十二年度下期は、前年同期に比べ、製造業で増益とみているものの、非製造業で減益とみていることから、全産業で増益とみている。十二年度下期は、製造業で増益とみているものの、非製造業で減益とみていることから、全産業で増益とみている。
- **企業の景況感** をみると、現状（十二年十一月期）では製造業で上昇、超幅が拡大しているものの、ウエイトの高い非製造業で、下降、超幅が拡大していることから、全産業では、下降、超となつてきている。なお、先行きは、「上昇、超に転じる見通し」となっている。
- **雇用情勢** をみると、完全失業率は、依然として高水準で推移している。また、有効求人倍率は低水準で推移している。

個人消費…堅調な動き



の、非製造業で減益とみていることから、全産業では減益見込みとなっている。十二年度下期は、製造業で増益とみているものの、非製造業で減益とみていることから、全産業で増益とみている。

また、有効求人倍率は低水準で推移している。

しているものの、新規求人数が増加を続けており、就職件数も増加を続けている。県外からの受求人数は大幅な増加を続けている。このように、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、一部に明るい動きもみられる。

- **消費者物価** は、全体では引き続き安定した動きとなっている。
- **金融面** をみると、資金需要は設備資金、運転資金ともに盛り上がり、欠けていることから、全体としては前年並みで推移している。
- **企業倒産** は、件数は前年並みとなっているものの、負債金額では前年を大幅に下回っている。